

製品名: 前立腺特異膜抗原 (PSMA) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21260

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:84kD;Observed MW:84kD

抗原情報

遺伝子名	FOLH1
別名	FOLH NAALAD1 PSM PSMA GIG27
遺伝子 ID	2346.0
SwissProt ID	Q04609
免疫原	ヒト PSMA の合成ペプチド

背景

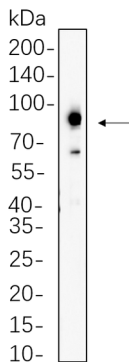
細胞局在: 膜。この遺伝子は、M28 ペプチダーゼファミリーに属する II 型膜貫通糖タンパク質をコードしています。このタンパク質

は、栄養素である葉酸や神経ペプチドである N-アセチル-L-アスパルチル-L-グルタミン酸など、様々な基質に対してグルタミン酸カルボキシペプチダーゼとして作用し、前立腺、中枢神経系、末梢神経系、腎臓など多くの組織で発現しています。この遺伝子の変異は、食物葉酸の腸管吸収障害と関連している可能性があり、その結果、血中葉酸濃度が低下し、高ホモシステイン血症を発症します。脳におけるこのタンパク質の発現は、グルタミン酸興奮毒性に関連する多くの病態に関与している可能性があります。前立腺では、このタンパク質は癌細胞で発現が亢進しており、前立腺癌の有効な診断および予後指標として用いられています。この遺伝子は、近傍の染色体領域の重複によって生じたと考えられます。

研究分野

-

画像データ



ラット前立腺細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを前立腺特異膜抗原 (PSMA) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。